クロスロード新聞

第34号

2012年6月25日

認定者続々！
つどいの報告に
神戸の研修も！

発行元：108-8345　港区三田2-15-45
慶應義塾大学商学部　吉川肇子研究室内
クロスロードサポーター事務局

静岡のつどい報告！

2011年12月25日、静岡県防災センターでクロスロードのつどいが開催されました。
当日のプログラムは以下の通りです。

１２月２４日（土）
プレ巡検　安政東海地震の津波の痕跡を訪ね歩く
１８：００頃～　前夜祭（懇親会）
１２月２５日（日）
９：３０～　・静岡県庁（危機管理センター等）見学
・地震防災センター内見学
１３：３０～　「クロスロードのつどい」
１３：３０　開会　あいさつ
１３：３５～１３：５０（２５分）　矢守克也、吉川肇子の報告
１３：５０～１５：３０（１００分）　事例発表等
・「静岡県の被災地支援等」・・静岡県危機管理部　板坂さん
・「生活安全指導について」・・・東京消防庁　中野さん
・「防災紙芝居『なまずの使い』」「クロスロード土砂災害版」
・・・岩手県立大学　田中みなみさん・畠山綾乃さん・後藤万里奈さん
１５：３０～１５：４５（１５分）　休憩
１５：４５～１７：００（７５分）　避難所運営ゲーム「HUG」紹介
１７：００～１７：３０（３０分）　全体ふりかえり（意見交換会）
１７：３０　閉会・解散

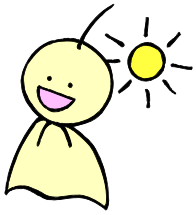
当日は静岡県危機管理部の板坂孝司さん、内山敬介さんに大変お世話になりました。改めて御礼申し上げます。
また、当日の模様は、静岡新聞、中日新聞、朝日新聞に掲載されたので、ご覧になった方もあるのではないかと思います。
残念ながら参加されなかった皆様には、当日の様子を写真でご覧頂くことにいたしましょう。

24日の下田巡検。下田の町の電柱(左)と、避難場所案内図(下)

目次

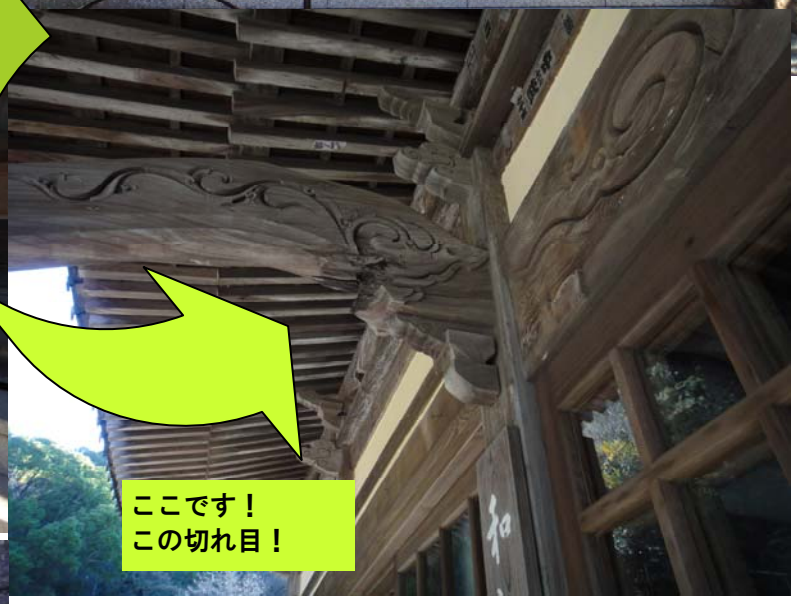
静岡つどい報告　1 -3
進級認定　4
クロスロード　貨物船編　4
神戸市新人研修　クロスロード　5
市民対応研修　クロスロード　6-7
クロスロードで　地域づくり　8-9
クロスロード　津波避難編　9
こんなところに　心理学（34）　10

クロスロード次号のご案内
発行予定日：
2012．8.15.
仙台防災イベントのご紹介、そして披露宴版も大公開！



責任編集
- チームクロスロード
- クロスロード・サポーター
- SPECIAL　THANKS:
高知県南海地震対策課
小溝智子（漫画企画）

下田巡検の様子



↑下田市了仙寺には、安政東海地震（1854年）の津波の際に流れてきた船がぶつかった跡が残っています。
この他、市内の「津なみ塚」なども見て回りました。

←板坂さんと地元のガイドの方（当日特別に案内してくださいました。ありがとうございました。）が立っているあたりまで浸水したとのことです。

なお、ガイドをしてくださった方は1944年(昭和19年)の東南海地震を体験されたそうですが、当時の国民学校では「地震」という言葉を習っておられなかったそうです。そのため、ゆれても地震が起きたとはわからず、当時戦争中だったので、爆撃機が墜落したのかなと思われたということでした。

また、東日本大震災以降、市内をガイドされる時には、津波が来たらどこへ避難するかを、この場所ならここ、と意識しながら回られているとのことでした。心強いですね。

つどいの様子です

静岡県が誇る「ふじのくに防災情報共有システム」を見学しました。
解説は開発を主導された内山さん→

↓中野さんは日常生活の事故を救急統計を交えて解説

↑板坂さんの発表はおなじみ「もも」問題

→後藤さんはクロスロード土砂災害編を使ったワークショップの模様を発表。土砂災害版完成品は参加者に配布されました。

続々！ファシリテータ進級認定！(敬称略です)

以下の方を初級に認定いたしました。

山形大学大学院教育実践研究科　村山　良之
(株)興和　山形営業所　熊谷　晃
山形地方気象台　上野　純一
　　齋藤　一史
山形ガス(株)　佐藤　彰一
山形市総務部　三條　恵美
山形県職員育成センター　松井　浩司
　　伊藤　哲史
　　鈴木　とも子
　　小室　淳

以下の方を中級に認定いたしました。

北海道大学大学院工学研究院　本宮　大輔
ニチロ畜産　中川　努
救援ボランティア左京、京都市消防団・左京応急救護分団
　　川枚　康夫

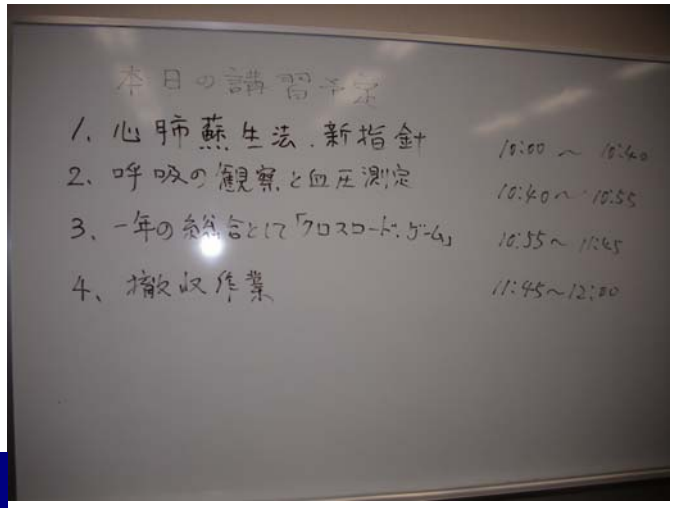
以下の方を上級に認定いたしました。

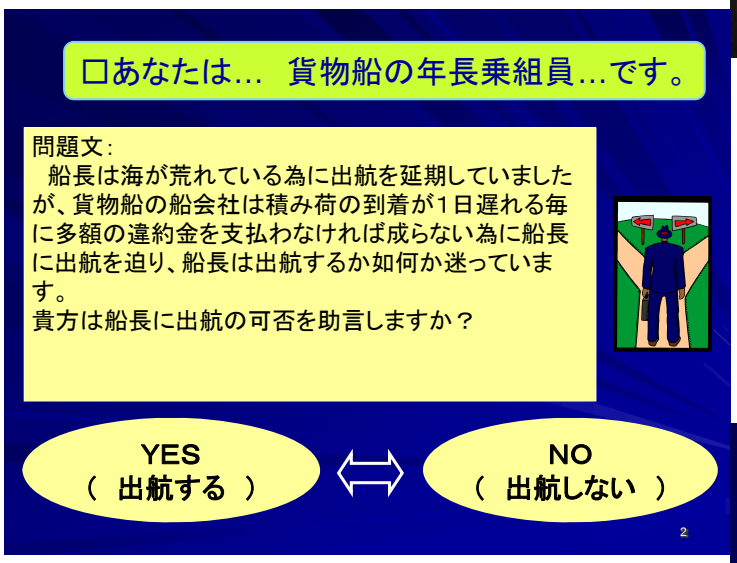
救援ボランティア左京、京都市消防団・左京応急救護分団
　　川枚　康夫

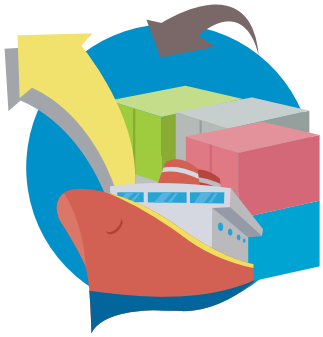
【応募先】108-8345
港区三田2-15-45
慶應義塾大学商学部　吉川肇子研究室内
クロスロードサポーター事務局
電話：03-5427-1251　ファックス：03-5427-1578
メール：kiikkawa@aoni.waseda.jp

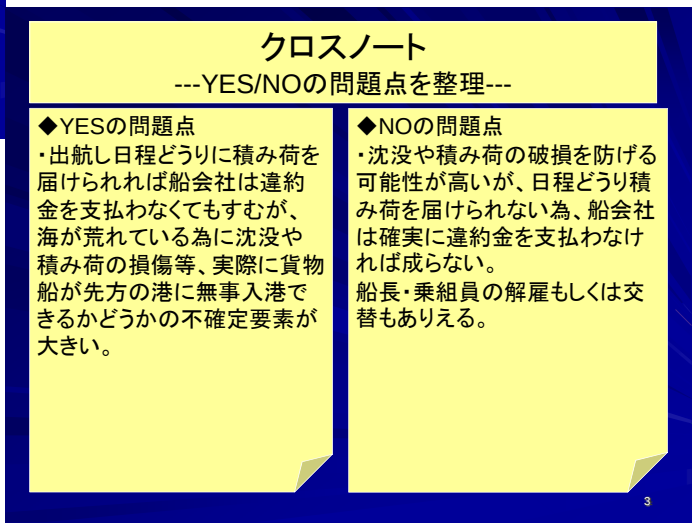
電子投稿はこちら↓
http://maechan.net/crossroad/toukou.html

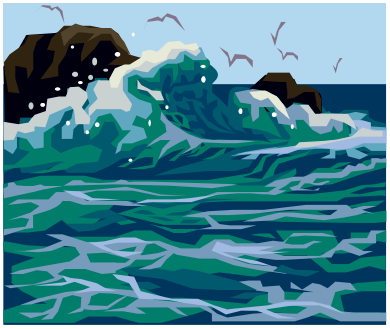
川枚さんからは、当日の様子(下の写真はプログラム内容)と、問題をお送りいただきました。あわせてご紹介します。











4月の神戸市新規採用職員研修で【震災"伝承＆クロスロード"】を実施！

「地震のときは５歳やったなあ！」
「わたしなんか、１歳やったわ！」
おいおい。こんなんでクロスロードできるんかいーと思わず不安になった研修冒頭の各班での賑やかな会話…

神戸市役所では、阪神・淡路大震災の経験を先輩から新人に伝えるべく、平成14年度から震災ロールプレイ研修（各人が、区長・災害対策本部員・避難所責任者・記者等の役割を担い、災害対応を擬似体験。報道対応訓練も兼ね、不適切な対応には講師職員が大声で鋭く指摘。あまりの厳しさに泣き出す職員も…）を実施してきた。

そして昨年度からは満を持して、クロスロード研修を併せて導入。今年度も一般行政等と消防の合計約280名の新人が、4グループに分かれて参加した。ファシリテーターは「神戸クロスロード研究会」が、体験談と設問コメントは「神戸防災技術者の会（K-TEC）」が担当。いずれの会も、神戸市職員の現役・OB有志の集まりだ。先輩が自身の体験・思いや後輩への期待を語り、新人たちが全身を耳にして聴く光景。どこか凛としていて、真剣勝負の空気が流れる。

研修講師陣による厳選５設問と、Yes/NoのYesの割合（カッコ内）は以下のとおり。

【1】未明の大地震で、自宅は半壊状態。幸い怪我はなかったが、家族は心細そうにしている。電車も止まって、出勤には歩いて２、3時間が見込まれる。出勤する？（82%）
【2】被災から数時間。避難所には3千人が避難しているとの確かな情報が得られた。現時点で確保できた食料は2千食。以降の見通しは今のところなし。まず2千食を配る？（62%）
【3】現在、避難所となった体育館にいる。館内では毛布が不足気味。折よく取材にきたTVニュースの番組クルー。テレビを通じて毛布提供をよびかける？（57%）
【4】大地震から1ヵ月経過。仮設住宅建設へ向けての毎日。これまで確保した用地だけでは、少なくとも100棟不足。この際、公立学校の運動場も使う？（58%）
【5】遺体安置を行っている。増え続ける遺体に対し作業員はわずかに数名。作業はまったく追いつかないが、数時間連続の作業ですでに身体はクタクタである。いったん休憩する？（71%）

う～む、さすがはクロスロード。意見が分かれるものだ。論拠も様々で、例えば設問１。進行役に促され、数人が自説を披露する。「神戸市職員として出勤は当然です。公務員の使命です！」（おお、頼もしい）「職員以前に、人間として心細そうな家族を放っておけないでしょう！出勤しません！」（人間として、と来たか…）

一番意見が割れたのが設問3。「物資不足なら、呼びかけるしかないでしょ」と皆思うはずと思っていたら大ハズレ。各班を回って聞き耳を立てると、「集まりすぎたら困る」などと冷静なコメント多数。いやはや、この落ち着いた判断が本番でもできたら素晴らしい。

研修終了後のアンケートでも、意外にもと言ったら怒られるが、しっかりしたコメントが続出した。「ほかでもない、神戸市の職員であることを自覚した」「正解なき中で考え抜くことは全ての業務で役立つ」「他者の反対意見も素直に聞けた自分がいた」「震災時の生の話は本当に貴重」「この研修はずっと続けてほしい」ー。おお！こんなにも、みんなの心に響いたか！続けますとも、クロスロード！

東日本の皆さんの厳しい現況と胸中に思いを寄せながら、17年前の神戸の経験を受け継ぎながら、そして、予見される地震に気を引き締めながら、濃い内容の研修となった。それにしても、カードを出す瞬間、話し合いのときの賑やかなこと。「その元気をいつまでも大切にせえよ」と、入庁四半世紀のおっさんは、密かに思うのでありました。

（神戸市職員人材開発センター長
神戸クロスロード研究会　　豊島英明さん）

↑仲間の意見に真摯に耳を傾ける新人たちと、温かな眼差しを向けるファシリテーターの柿本さん。ファシリテーターは、ほかにも、玉井さん、西さん、吉本さんが担当しました。

区役所でクロスロード！！(市民対応編）

「えっ！！　市民の目の前を目礼もせず、平気で横切る職員に唖然！！」

私の区役所体験は、そんな‘びっくり’からスタートしました。神戸市で初めて私が民間出身者として区民サービスディレクターに採用されて、４年目になります。区民サービスディレクター導入の目的は「市民目線からの窓口サービスの向上」です。市民目線とはどんな目線？　市民は、区役所に本当は何を求めておられるのか？　私の七転八倒はここから始まりました。

某有名ホテルの様にドアマンがすべてのゲストのお顔を覚えていて、お名前でその方をお出迎えする，ゲストの誕生日とわかると、部屋にお祝いのお花、クレームにはスタッフの裁量で出せるお金の予算がある、等等・・・はたして、その様な応対を市民は区役所に求めておられるのでしょうか？　否。では、どの様な応対が求められるのでしょうか？

例えば前述の様に、市民の目前を目礼もせず平気で通り過ぎるのはＯＫなのか？　明らかに庁内で迷っておられる市民がおられても、積極的にはお声掛けしないのは？　それでＯＫなのか？　着地点はホテルと現状の区役所のその間にあるように思えました。なぜなら、過少スペックは勿論問題ですが、経営資源の限られたなか、過剰スペックもまた問題だと思われたからです。

「過去と他人は変えられない」、唯一、人が変われるのは、**「自らの認知が変わる」時**（だそうです）。従って、その認知が変わるチャンスをどれだけ職員方に提供できるのか？　そこが私の役割ではないか？　悩みに悩んだ末、うっすらとそんな思いがたちのぼってきました。その方の認知が変わるには、新しい体験や心がふるえるような感動、目から鱗の他人の意見、そんなものに触れる、そんな**「気づき」**の機会をどれだけ提供できるか？

「気づき」の機会の提供のひとつが「クロスロード」だったのです。

２７０名の神戸市兵庫区役所職員がＨ．２４年１月１２日（木）～１月２７日（金）の間の５日間、１０コマの枠でクロスロードを体験しました。１コマは約３０名、５～６グループです。しかも、ファシリテーターは、係長級職員１０名がつとめました。１０名の職員が与えられた研修ではなく、**悩みながらも、自らが企画、実施した**のです。そのプロセスの中で今までなんの接点もなかった他の所属の係長とも顔見知りになりました。設問を考える中で、日々の手馴れた自分自身の応対を省みる機会を与えられました。また、実行までにも職員達は、多くの実りを手にしました。

応対研修というと、言葉遣い、身だしなみ、態度、笑顔、電話のロールプレイ等・・・　が代表的かと思います。　そういった基礎を知ることは重要とは思いますが、ともすれば、研修の場でのみコレクトとされる行動、言葉遣いをしていればそれでＯＫ．職場に戻れば、もとの木阿弥・・・この繰り返しをストップするには、**「自ら気づく」**事につきるのです。なぜなら、人は**他人から自らを変えられたくはない**のですから。

誠実で優秀な職員が多い区役所職員が内向きではなく、外に向かって**「自ら心を開いて」**見知らぬ職員と思いをシェアーする、この経験を経て今一度、**「自らの誇り・プライド」**を思い出して欲しいと願ってやみません。最後になりましたが、多忙な中惜しみないアドバイスをいただいた兵庫区　まちづくり課　柿本課長に心から御礼申し上げます。

（神戸市　兵庫区　区民サービスディレクター
佐伯陽子　さん）

【クロスロード研修用設問の一部をご紹介します】

Ｑ１　**あなたは…新採職員**

３人のチームで仕事をしている。２人はベテラン職員。２人から仕事を教えてもらっているが、２人が真逆の事を言う。あなたは、すぐ、上司に相談する？

→　Ｙｅｓ（相談する）／Ｎｏ（相談しない）

Ｑ２　**あなたは…案内担当の職員**

１人の市民が証明書のとり方や手続きの方法を尋ねてきた。高齢でかなり丁寧な説明が必要なようだ。その時間帯は混雑しており，他にも案内を待っている市民が複数人確認できた。あなたは、高齢者の市民への説明を中断して他の市民に応対する？

→　Yes（中断する）／No（中断しない）

Ｑ３　**あなたは…レジ担当の職員**

市民から「新幹線の時間に間に合わない。急いでいるので早く精算してもらえないか」と言われた。レジは順番を抜かして打っても待っている側にはわからない。あなたは順番を抜かしてレジを打つ？

→　Yes（順番を抜かす）／No（順番どおりにする）

Ｑ４　**あなたは…車で移動中の職員**

障害程度区分調査（障害福祉サービスを受けるために必要な障害程度区分を決めるための調査）のため車で移動中、横断歩道の手前で白杖（ﾊｸｼﾞｮｳ）を持った視覚障害者の方がうずくまっているのに気付いた。様子がおかしいようだ。他に車は走っておらず、人通りは全くない。

車を止めて助けたいが、途中で渋滞に巻き込まれ約束の時間はもう過ぎている。相手とはようやくアポイントが取れて、今日行くことになったところである。あなたは、うずくまっている人を助ける？

→　Yes(助ける)　/No(助けない)

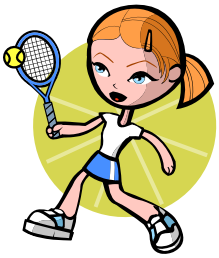
区役所でクロスロード！！(市民対応編）：写真もご覧ください

研修中に笑顔と拍手が広がりました。

神戸市星和台・鳴子地区での地域づくりクロスロード

神戸市星和台・鳴子防災・福祉コミュニティでは、地域作りのためにクロスロードをお使い頂いています。新聞でも何度かご紹介していますが、吉本和弘さんから新たに新作をお送りくださいましたので、一部をご紹介します。また、次号にも継続的にご紹介していく予定です。お楽しみに。

分類	２１年８月：星和台・鳴子防コミ№6-b
種別	部活動編
タイトル	ＯＢと現役の間で発生する問題
問題	あなたは・・・部活動の1年生部員 この春、兵庫県中学校総合体育大会（中学総体）で１回戦敗退して引退した３年生の元キャプテンが練習の指導に来てくれます。しかし、新しい２年生のキャプテンは練習方法を変えています。 あなたは、親切に教えてくれる元キャプテンの練習方法に従いますか？ Yes/従う　　No/従わない
解説	出題者が最初に考えた問題文は次のとおりでした。 「あなたは・・・地域活動団体の会長 地域活動団体の役員で長年活躍されてきた住民が、この度、役員を勇退された。ご本人は団体の経緯（生い立ち）に詳しく、ご意見番のつもりで団体の運営にいろいろと意見を言ってくる。ところが、現役員は、過去にとらわれず、今の時代に合うような活動をしようと模索しており、現役員とご意見番との考えに大きな隔たりがある。団体の役員から「役員でもないのだから、団体運営への意見をしないよう注意して欲しい」という苦情がでている。あなたは、ご意見番に団体運営にかかわらないよう注意しますか？」 ＯＢと現役との間に起こるこのような現象はいろいろな団体で見受けられます。地域団体も同じなのですが、地域団体の結束力は活動の充実度やリーダーの魅力によるところが大きく、魅力が弱まると一瞬で瓦解するという危うさを内包しています。それだけに地域団体では、この問題に対する関心が高くなります。 ところが、この問題を地域団体主催のクロスロードに採用しますと、「ご意見番はだれか」という憶測を呼び、紛争の火種になるかもしれません。また、参加している中学生には難しすぎるだろうと考えました。 ＯＢと現役の間で発生する同じような問題に摩り替えることになり、青少年育成協議会の役員が担当することになりました。担当役員のコメントは「強くない上級生か、強くなれそうな下級生の新キャプテンか。裏読み次第でかなり分かれると思います。」でしたが、どこまで意見が分かれるかを検証できませんでした。ただし、体育会系と文科系で意見がわかれるであろうという推測はありました。結果は、Yes１１人、No３１人でした。 「上級生の善意は汲み取ってあげる必要があるでしょうね。指導する上級生もありがた迷惑にならないようにしましょうね」とコメントしました。
主なYes意見	中学１年生にとって中学３年生の指示に従わないのは無謀だと思う。 かつていた部活では先輩は絶対で、先輩のいるときは先輩に、いなくなるとキャプテンの指示に従っていた。
主なNo意見	先輩後輩より、今のまとまりを大切にしたい。 一回戦で負け、手持ち無沙汰になったので指導するありがた迷惑な先輩がいた。 今は上下関係が昔のように厳しくなくなっています。（教師）
文責	神戸クロスロード研究会：吉本



分類	２１年８月：星和台・鳴子防コミ№8-a
種別	地域防災編
タイトル	避難所の管理・運営
問題	あなたは・・・住民 　超大型台風が到来した。暴風雨で自宅がきしみ、屋根瓦が飛び、雨漏りもしてきたので、近くの小学校に避難しに行った。小学校の校舎の前には同じく避難してきた数人の住民がおり、校舎に鍵がかかって中に入れないことが分かった。 　あなたは、窓を割って校舎に入りますか？ 　Yes/校舎に入る　　No/校舎に入らない
解説	私たちの防災福祉コミュニティ（自主防災）組織では、ここ数年、避難所開設と運営について小中学校と協議を重ねてきました。継続協議中ですが、このことを考えてもらいました。 　平成７年１月１７日、私は神戸市兵庫消防署で阪神淡路大震災に遭遇しました。地震直後から大火災が発生し、火がＮ病院に迫りました。私は消防隊員２名と看護師２名・事務員１名で２０数名の患者を病院外に避難させ、看護師に近くのＭ中学校が避難所であることを告げました。「後は、皆さんの手で患者さんを搬送してください」とお願いしたのですが、戻ってきた看護師さんから「校舎に鍵がかかっており、入れません」という相談を受けたのです。看護師さんが目の前の状況を理解していないことに驚きました。 　この経験を、台風災害と自主避難者数人が校舎前に溜まっているという状況に代えて問題にしました。小中学校の先生や中学生もクロスロードに参加しており、白熱した議論になりました。結果はYes２２人、No２０人でした。 　学校の先生がおられたことで、最近の学校はいたずら防止のために強化ガラスが使われていて窓ガラスを簡単に割れないこと、無理に割るとその損害額が大きいことを知りました。 　「避難所の開設には単に校舎の鍵を預かるだけで済むものではありません。私たちは避難者の生活支援を含めた運営管理を考えていかなければならないのです。そうすることで自分たちの安全を守ることができます。」とコメントしました。
主なYes意見	物的被害より、人命を優先すべきだ。 体力のない子供やお年寄りのためにも中に入るべきだ。
主なNo意見	家に帰ればいい。 強化ガラスの破壊は難しい。残念ですが､破壊方法をみなさんに教えられない。（消防隊員） 強化ガラスを割られると２－３万円の損害となる。（校長先生）
文責	神戸クロスロード研究会：吉本

また吉本さんからは､津波避難の新作問題もお送りいただいています｡一部をご紹介しましょう。

問題１：あなたは・・・海岸近くに住む住民
　地面が大きくゆれ、津波警報がでました。３０分後に津波が到達するという予報がでており、高台の避難所に逃げようと思います。
　ところが、子供が車で１０分ほどの場所にある小学校に通っています。小学校に電話がかからず、子供のことが心配です。
　あなたは、まず子供を迎えに行きますか？
　YES(迎えに行く)　NO(様子を見る)

問題２：　あなたは・・・海岸近くに住む住民
　地面が大きくゆれ、津波警報がでました。３０分後に津波が到達するというので、あなたは家族といっしょに避難しています。
　その途中、何も持ってこなかった上に家を開けっ放しにしてきたことを思い出しました。今からなら津波到達前に戻れそうですが、避難所に着いてからでは戻れません。
　あなたは、家族と別れて、自宅に戻りますか？
　YES(戻る)　NO（もどらない）

ちなみに､吉本さんが実施されたところ､問題1については､海から離れた自治会ではYESが18人､Noが10人､海の近くの病院では､YESが23人､NOが19人だったそうです｡問題2については､YES12人､NOが37人の結果でした｡みなさんのお考えはどちらですか？

こんなところに心理学(34)：ことばづかい「も」大事です

みなさんの中には、何年か前の携帯電話会社のあるCMを覚えておられる方があるかもしれません。一家のお父さんである白い犬(もうどこの会社かおわかりですね)が選挙に立候補するという設定のCMです。CMですから、携帯電話の割引システムを選挙カーから連呼しているのですが、最後に「〇〇次郎(犬の名前です）もよろしくお願いします」と、ウグイス嬢役のお母さんが言った途端に、お父さんから「『も』じゃないだろ、『も』じゃ」と、突っ込まれてしまうのです。設定が選挙運動ですから、本来なら立候補者本人の名前をいうべきなのですが、「〇〇次郎『も』」といった途端に、そちらの方は本筋の話ではなく、付け足しなのだな、と私たちが思ってしまうところをうまく表現していたCMだったと思います。

このように、ちょっとしたことばづかいが、私たちの印象を左右することってありますよね。例えば、記者会見に出てきた政治家や社長の不用意な一言が、社会の反感を買って、場合によっては辞任に追い込まれることもありました。

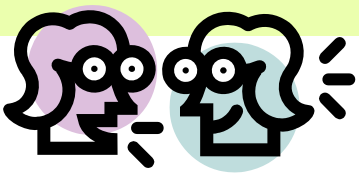
6ページに紹介されているように、最近は市民対応を研修される地方自治体も多いことでしょう。市職員の方々も、市民に接しておられて、何気ないことばづかいの難しさには悩まれていることと思います。今回は、そういうことばづかいの科学について解説しましょう。と、ここで、「ことばづかいに『科学』なんてあるの?！」と思われたあなた！そういう方こそ、是非読んで明日からの市民対応に活かしてください。

さて、まず前提の確認です。私たちは通常、誰かと会話するとき、お互いに協力して会話に参加していますよね。「KY（空気読めない)」という言葉がいっとき流行しましたが、そういう言葉があるくらい、普通は空気を読んで会話しているわけです。

このことは、通常は私たちの会話の効率を上げています。例えば、「この薬は1日3回飲んでくださいね」とだけいえば、普通の人は1日に2回でも4回でもなく、3回薬を服用するでしょう。「1日に1回でも2回でもなく、4回以上ではない3回ですよ」と、いちいちいわなければならないとしたら、会話が面倒でしょうがなくなってしまいます。

このように日常使われている会話のルールは、グライスという研究者によって4つにまとめられています(下の枠内参照)。

グライスによる会話のルール
- 量のルール：必要な量を伝える
- 質のルール：嘘は伝えない
- 関係のルール：関係のあることを伝える
- 様式のルール：意味がはっきりしない表現を避けて、簡潔に伝える



ところが、通常はこのように会話の効率を上げているルールが、逆に作用する場合があります。

例えば、「直ちに健康には影響を及ぼしません」という表現が、福島第一原子力発電所事故以降問題になりました。これは、「量のルール」にかかわっています。私たちは、必要な量を伝えられているのだから、わざわざ「直ちに」というからには、そのことに意味があると考えてしまいます。結果として、「直ちには影響がないかもしれないが、長期的には影響があるのか」というように受け取られた方も多かったのではないでしょうか。

この例に限らず、正確に話をしようとすると、限定的な語句をつけがちです。しかし、そのことがかえって思いもよらない推論を招くことがあるのです。

お詫びの仕方にも同じことが言えます。「そのことについては、お詫びします」というと、「そのこと以外には謝るつもりはないのか」と受け取られる可能性があります。謝ると決めたからには、条件つけずにキッパリ謝りましょう（笑）。

「質のルール」の違反は、典型的には皮肉に見ることができます。このルールによれば、私たちは嘘だと思っていることは相手に伝えないので、例えば、「誠実な対応ですね」とわざわざ言っている(誠実な対応なのは当たり前)からには、「本当は誠実だとは思っていないのだな(皮肉を言っている)」と思われてしまうのです。

注意報や警報が出ると待機になるお仕事の方もおられることでしょう。そんなときの話だと思ってください。上司が「申し訳ないけど、残って待機してくれない？」と頼まれたらどうしますか?「今日は結婚記念日でして」と、おっしゃる方もあるかもしれません。上司の依頼と結婚記念日の話は本来関係ないようですが、並べられると「結婚記念日だから早く帰らなければならない」と、暗に断っていると上司にはわかるのです。「関係のルール」がここで使われています。そういえば、意外と自分も使っているかも、と思われる方もあるかもしれません。

最後の「様式のルール」は、要するに簡潔に情報を伝えなさいという話です。東日本大震災を受けて、防災対策を見直されている自治体も多いと思われます。市民からの問いあわせも増えているかもしれません。「で、うちの地区の防潮堤のかさ上げ、ちゃんとやってくれるんでしょうね?」と市民に尋ねられて、こんな回答されていませんか？「その施策については、あらゆる可能性を考慮し、しかるべき方策を順次適切に実施していく予定です。」これを聞いた市民は「要するにやる気がないんだ！」と思ってしまうことでしょう。回りくどく言うのでなく、実施するなら実施する、今できないなら理由を述べて、実施できないことをきちんと話した方がいいですね。

そういえば、最近大飯原発の再稼働に関して「暫定的な安全判断であることを前提に、限定的なものとして適切な判断をされるよう強く求める」という声明がありましたが、「で、結局容認しているの?していないの?」と思われた方は私だけではないでしょう。

内容がよければどういう言い方をしてもOK、と思い込まず、ことばづかい「も」大事、と覚えてくださいね。